

ごぼはんだより

発行：真宗大谷派 常入寺（富山市東老田787番地） 発行責任：青井 和成
電話(076)436-0816 Fax(076)436-2766 携帯電話090-3764-3983

忘 年 会

「もういくつ寝るとお正月」という歌が不自然でない時期になりました。また「もう一年経ったのか」ということを思われる季節ですね。一年の長さを早く感じれば感じるほど歳を取った証拠だということを聞きます。私も「もう一年か～」ということをよく思うようになったので、歳を取った証拠なののでしょうか。

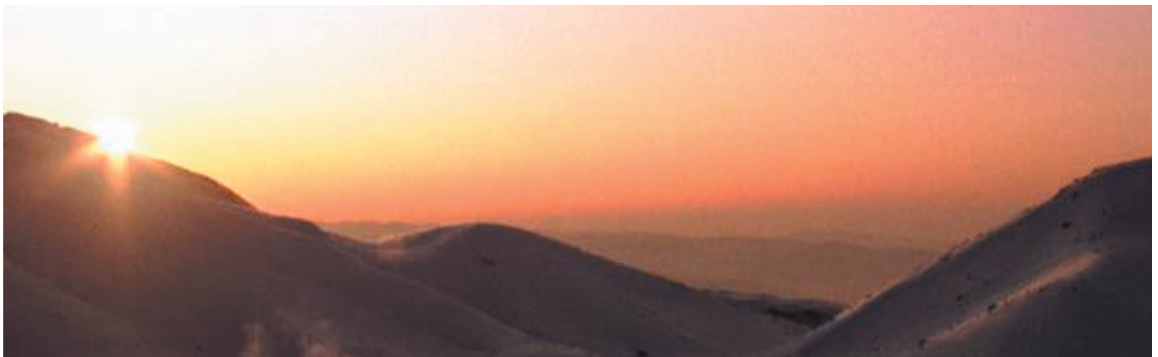
さて大晦日に近づけば近づくだけ「年忘れ」という言葉をよく耳にするようになります。でも本当に年忘れでいいのかと思います。一年のいやなでき事を忘れてしまおう、なかったことにしようということなののでしょうか、その気持ちは私の心の中にもありますが、本当にそれでよいのでしょうか。また無かったことに本当にできるので



しょうか。

人生の中にはよい出来事、悪い出来事があります。一年間でも同じ事です。よい思い出だけを残しておいていやな思い出は忘れたい、そう思うことは当然のことなのですが、悪い思い出も自分にとっては大事な経験なのではないでしょうか。いやな思い出を大事にしていけばその思い出は「反面教師」として自分の人生に、未来に生かせるのではないのでしょうか。私たち人間は失敗によって成長していくということの方が多いのではないのでしょうか。私はそう思います。だから年忘れをしてはならないのです。しっかり記憶に残し年越しをしなければならないのではないかと思います。善いことを教えてくださる方も自分にとって大事なお方であり、出来事であります。同じように悪いことを教えて下される人も、大事な人であり、出来事です。自分の人生に置いて感じたことはすべて自分の肥やしになるのではないのでしょうか。

そう思い一年間を振り返り新しい年を迎えなければならないのではないのでしょうか。



君は僕の大切な人



作：ひのすなお

二〇〇三年 年忌 (年忌) 換算

年忌

命終年

む	三	七	十	十	十七	(二十)	二十	(二十七)	三十	五十	七十	百
かわ	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
り	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期
二〇〇二	二〇〇一	一九九七	一九九一	一九八七	一九八一	一九七九	一九七七	一九七一	一九五四	一九三四	一九〇四	
(平成十四)	(平成十三)	(平成九)	(平成三)	(昭和六)	(昭和五)	(昭和五)	(昭和五)	(昭和四)	(昭和二)	(昭和九)	(明治三七)	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

法要は誰々の年忌(年忌)だから勤めるものではありません。年忌を縁として勤めるものが法要です。法要は仏法に出遇うための儀式です。先祖を慰めるために勤めるものではなく、先祖に出遇い、人類共通の願いを採すために勤めるものです。先祖を供養するのではなく供養は先祖に供養されているのです。

は っ ま い り 修 正 会

二〇〇二年一月一日(水) 午前五時より

※修正会はいわゆる厄年の方々が団体参拝されますので、時間が変わることがございます。

※年賀の受付は一日午前四時より二日午後五時まで受け付けています。皆様お参りください。お待ちしております。

御礼

先般、親鸞聖人御正忌法要を勤めさせていただいた折り、たくさんの方々がご参りをいただき、また心いっぱいの御懇志をお運びくださり有り難うございました。心より御礼申し上げます。